



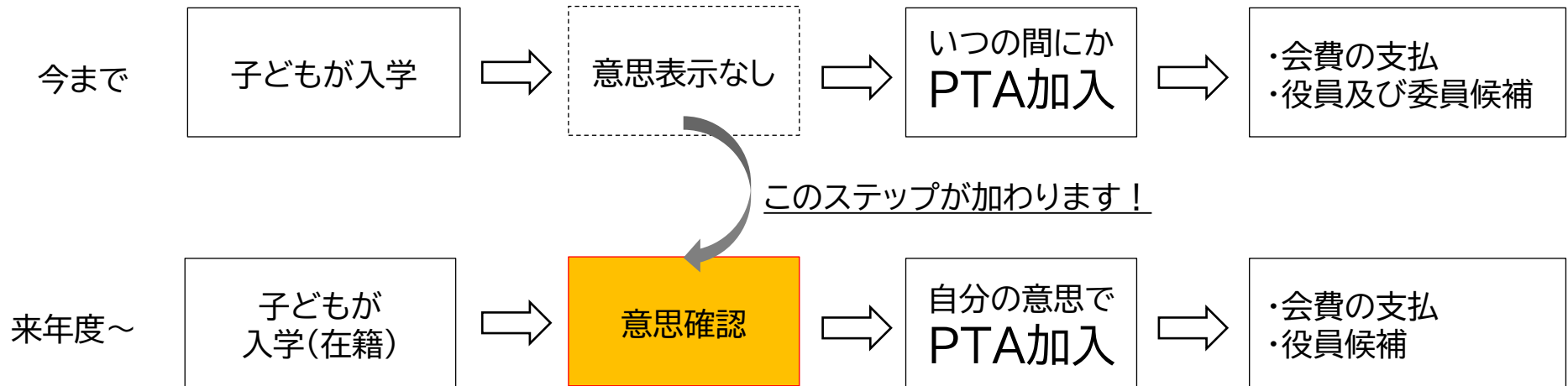
ほっと通信 特別号
2025

5分でわかる！

藤阪小PTAのこれから

2025年10月発行 藤阪小PTA本部

1. PTA組織の変革で起こること



+現在の状況として

*役員をほぼ誰もやりたがらない(くじ引き選出。毎年交代)

*「児童ポイント制による強制的に全員が委員経験義務」→逆に役員を避け、委員を選ぶ(?)

「やらなくていいなら、やらない」となる??

予想される事態

PTA会員の減少、もしくは激減

…要するに現在、**存続の危機に直面**している！！

危機なのか？チャンスなのか？
解散させるという道も。
でも、ほんとにそれでいいの
か??

2. 藤阪小PTAでできること

そんな状況ですが、役員会で出した結論は
「嫌々やるのではなく、やりたいことができる組織」に見直すことから始めよう

というのも解散をすぐ視野に入れるわけにはいかない、希望的観測がいくつかあります。

希望1 めちゃくちゃ繰越金が残っている

会費収入は70万円程度ですが、
周年行事用積み立てが**200万円以上**、一般の繰り越しも**270万円**近くあります。
解散したらこのお金がどこにいく？ 市に寄附する？ ※どこかに寄附すると「PTAとしての意思」は通用しなくなります
すべて、「藤阪小の子どものため」に使えるお金であり、
それを決めるのは我々現役PTAです。
今年は「熱中症対策の給水機」「藤小校区まつりでの子どもたちの還元」にも使っていきます。

希望2 実は裁量の大きい、自由に動きやすい団体

PTA組織って「なんだか例年やっていることを例年通りやる団体」というイメージはありませんか？
実は自分たちで決めて、自分たちで執行していける仕組みになっています。

「今まではこう
やっていた！」



それは何に基づくのだろう？

- ・規約？細則？
- ・単年度の事業計画？予算案？
- ・運営方針？
- ・慣例？地域との約束？

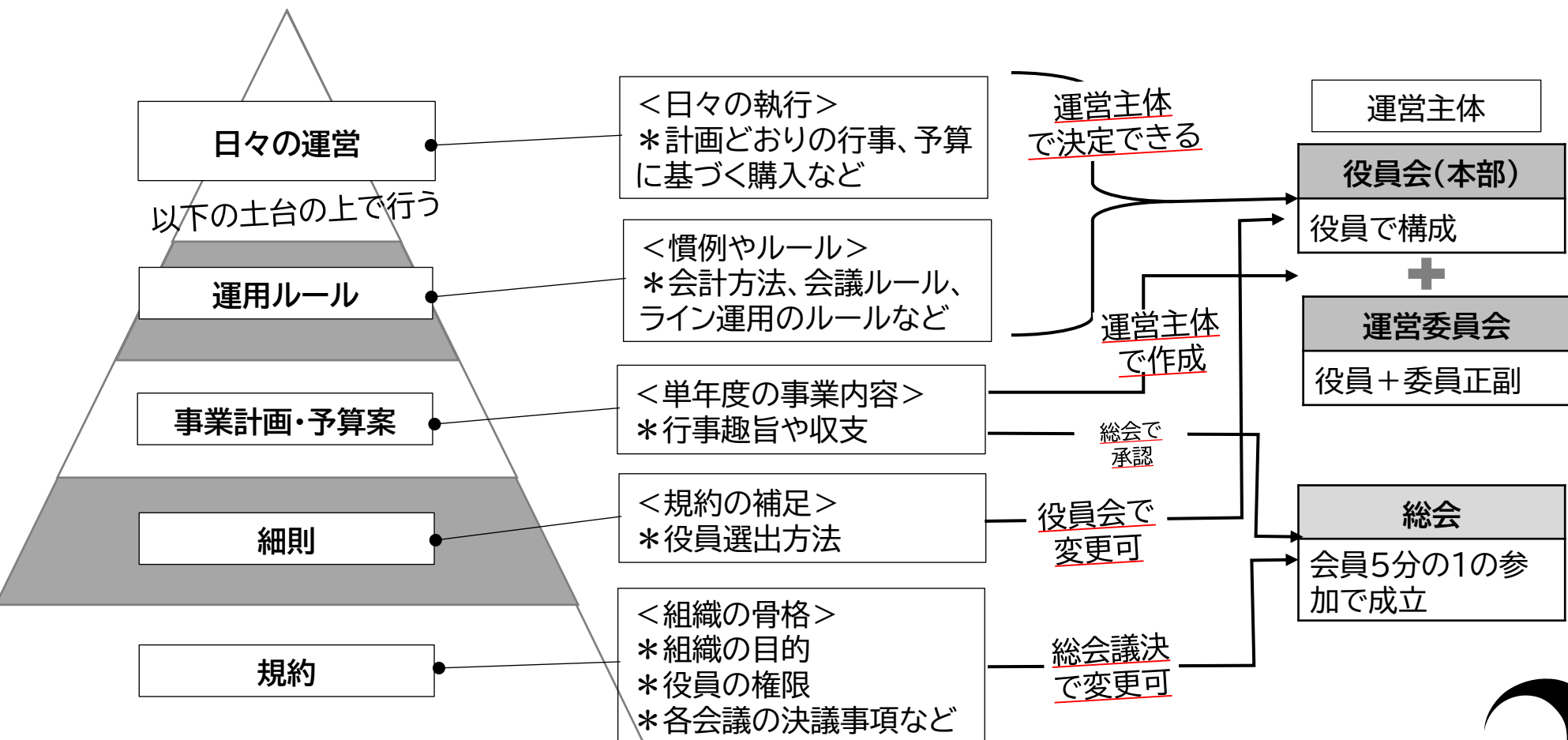
基づくものがあっても、
全て手続きを踏めば変えるこ
ともできます。

詳しく見ておきましょう！



3. 藤阪小PTAはこんなに自由！

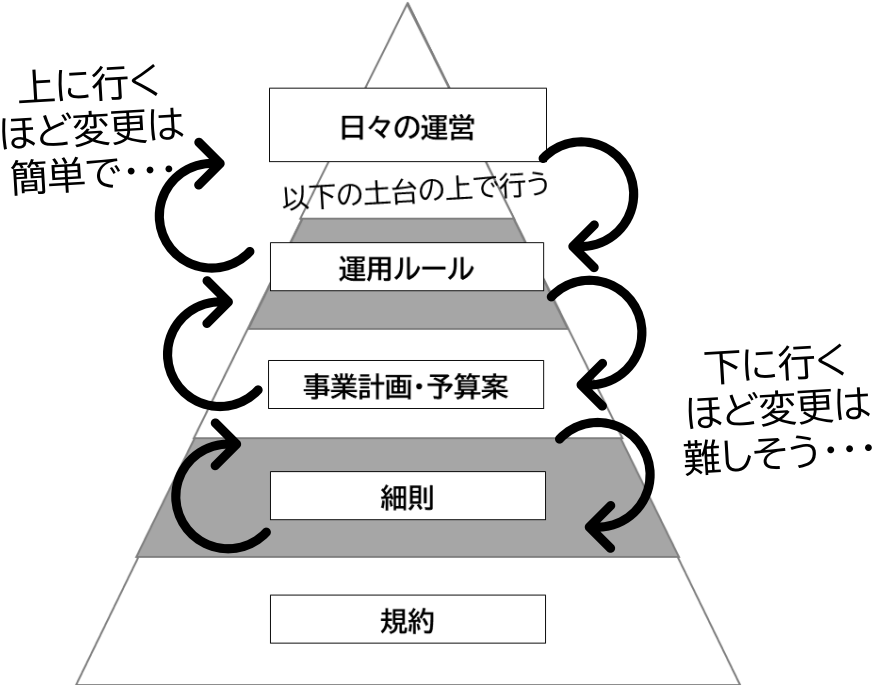
大前提は会の目的＝「児童の福祉の増進をはかり、あわせて会員相互の親睦と研修をはかる」(規約第二条)
ざっくり言えば、「子どもたちのためになる活動を行います！」ということ
その上で以下の仕組みを押さえておけば自分たちの意思で見直し、変更ができる。



当たり前ですが、人が作ったものなので人が変えられます。
そして変える仕組みも先人がルール化してくれています。

「でも、見直すのもエネルギーいるよね」…大丈夫。
今年、変革しておきます。4

4. 改革①運営主体で決められる組織に



組織変革のルールが分かった上で、さらに動きやすくするために今後を見据え、2025年度はいくつか手を打ちます。その一つが、「規約のスリム化」です。実は5月予算総会時の規約改正で一部布石を打っておきました。

改正前	5.10改正後
* 非加入に言及なし * 運営委員会で決定 * 各委員の活動行事まで規約に明記(実際にはしていない内容も記載) * 細則も規約と同レベルで総会で議決が必要	* 非加入届を明記 * 基本、役員会で決定 * 各委員の役割は実態に合わせ、できる限りシンプルに * 細則は役員会で変更可能(周知義務はあり)

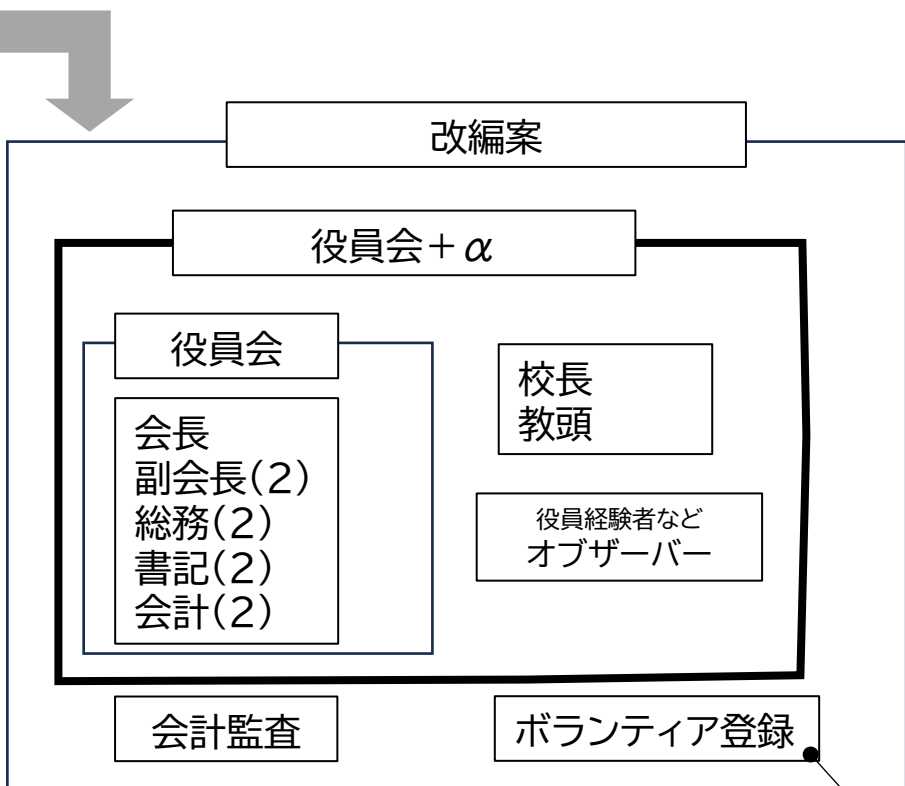
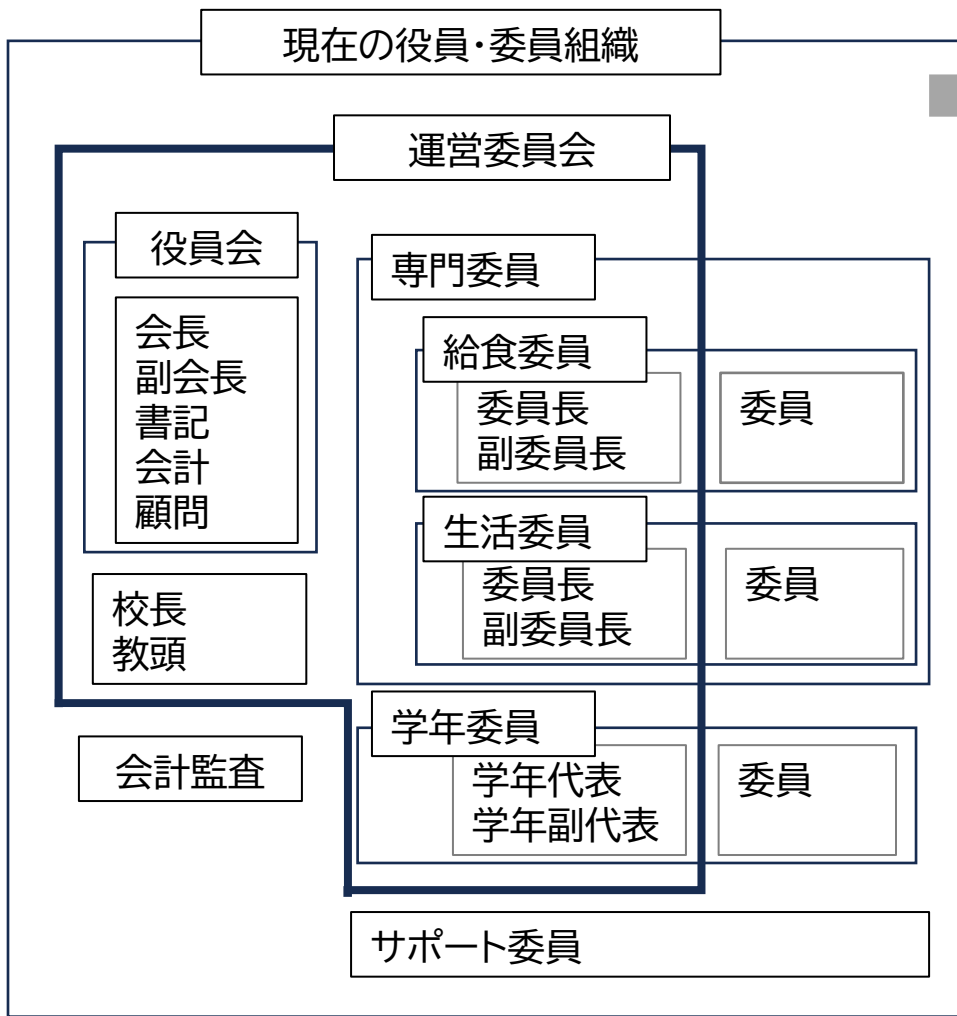
さらに見直しを進めていきます

現在案にまだ残る課題
* 加入届の記載なし * 各委員の役割がシンプルだけど記載はあり * 全体的に細かい制約が多い * 細則には選出方法のみが記載されている。

10月改正
* 加入届について明記(ここがメイン) * 役割記載をできるかぎりなくし、事業の見直しと合わせて、体制を考えられる状態に * できるかぎりに細則に移行 * そもそも規約、細則に書く必要のないものは削除する

5. 改革②運営主体もスリム化

役割分担で例年通り事業を進めるなら現体制でもいいのですが、内容を見直しながら進めていくには主体が大きいと無理！ということで大胆に組織自体をスリムにしてみたい。

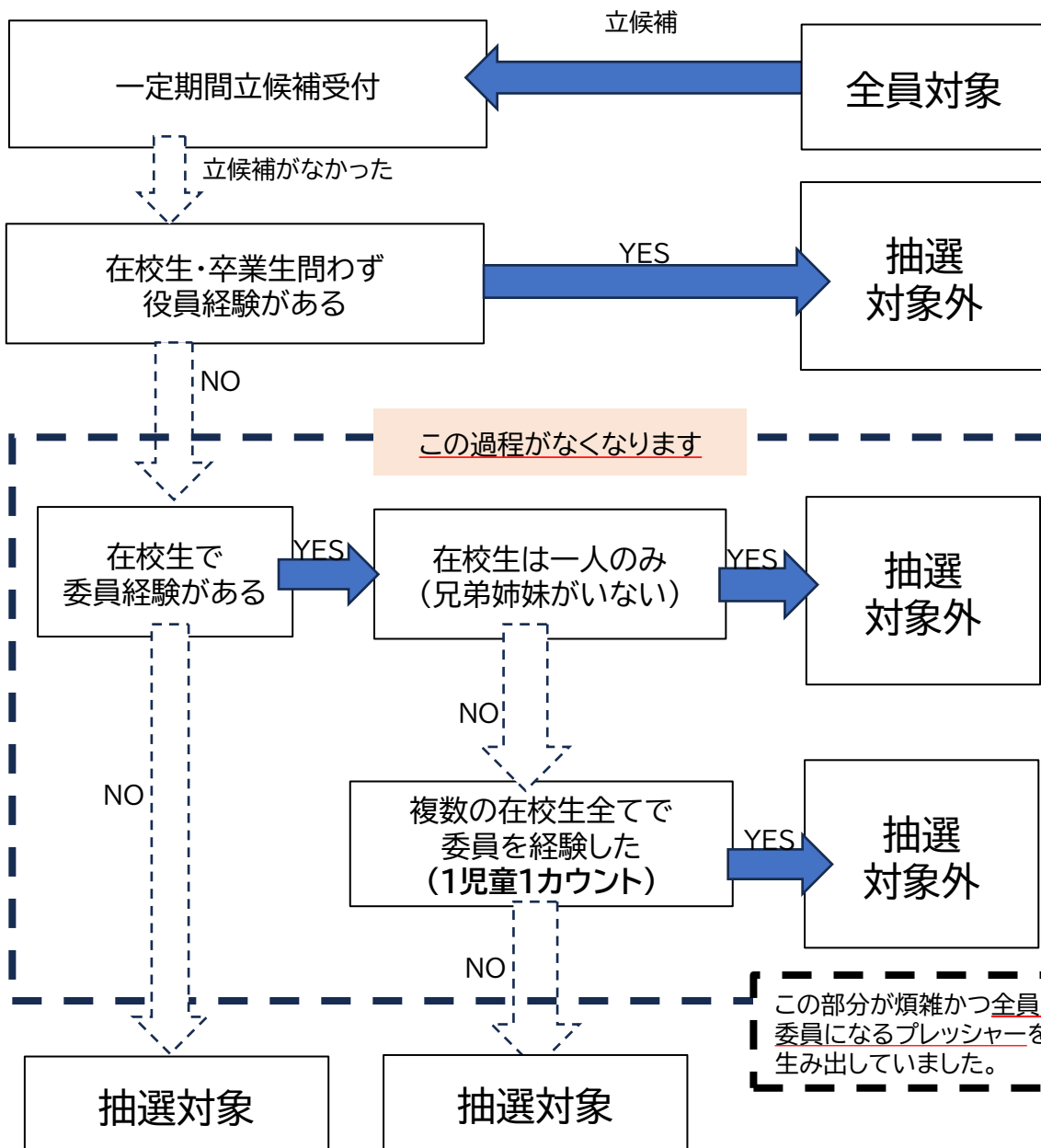


- ※専門委員を解散し総務担当役員を2人新設
- ※選出カウント上も全員役員級とする
- ※役員会 + αは必要となきのみ招集する

※5月改正で名称変更
※意思決定機能を運営委員会から役員会へ移行済
※各委員まで含めると実態に合わない巨大組織
(校区まつり当日の実行体制には合致)

藤小校区まつりなどイベントを実施するときだけ手伝い(ボランティア)を募集するという仕組みを考えています。

■参考:選考過程もシンプルになります



今まで

活動実態に比べ、委員数が多かったことから様々な問題が起きていました。

- ☑加入確認を行わない延長でPTA会員としての「名簿が存在しない」ので委員経験有無が適正に管理できない。
- ☑新年度と同時に次年度役員、委員の選出がスタート(選ぶ方も選ばれる方も大変)
- ☑全保護者が委員になるルールを死守するために「活動実態<選出の手間」に。
(「藤小校区まつり」の当日スタッフには程よい人数)

これから・・・

「予算案・事業計画」作成と事業推進を行うため、役員の存在は引き続き必要ですが、様々な課題要因である委員選出をなくします。

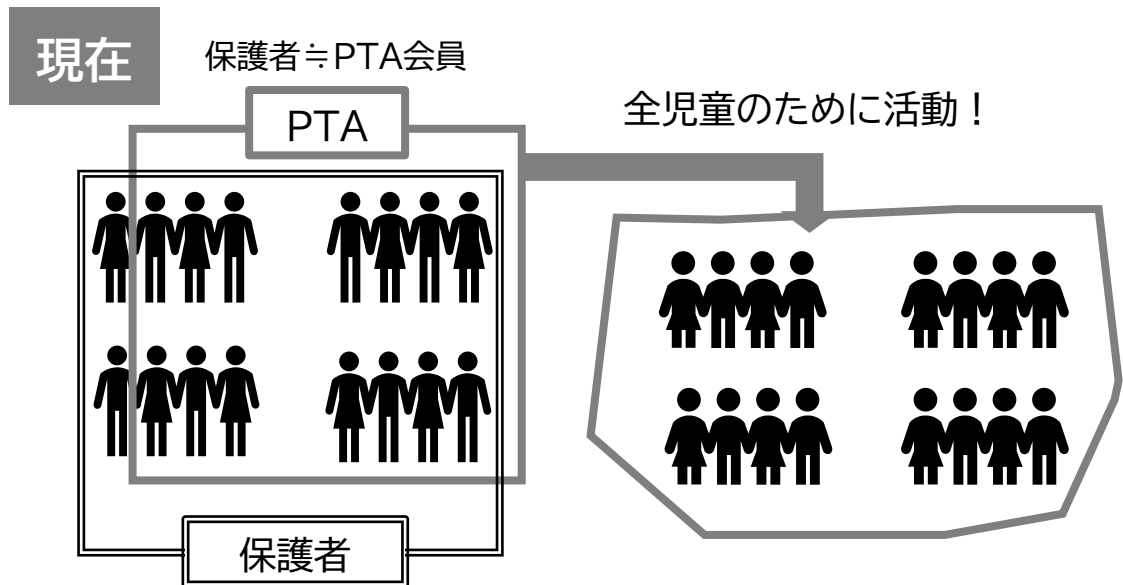
- ☑加入確認と同時に役員の立候補を募る。
- ☑加入者に役員経験の有無を確認しておく。
- ☑立候補がなかった役員のポストを役員経験のないメンバーから抽選する

※現1～5年生保護者は、「1児童1カウント制」でやってきたため、抽選が必要になれば、「役員・委員経験者を省く」などの経過措置は必要と考えています。でも「加入者」にどれだけ経験者がいるかはやってみないとわかりません。「基本的には立候補でポストが埋まる」が理想です。立候補がなければポストを減らすくらいのルールにしようする必要があります。

6. おこりそうな問題

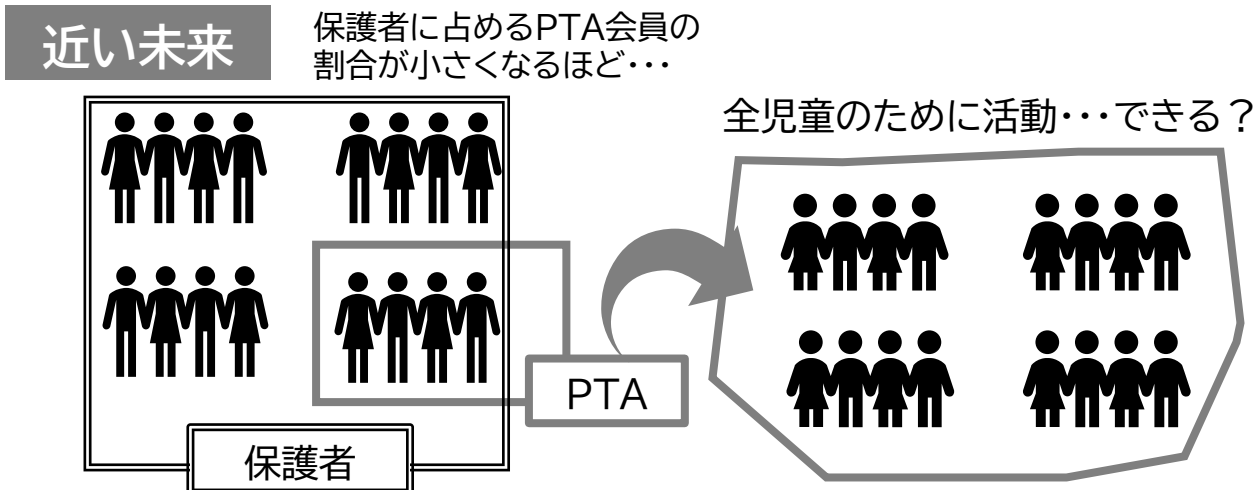
...すでに起こっている？
むしろ、怒っている？

「全員加入前提組織」から「加入意思確認組織」へ変更することで起こる大きな問題を挙げておきます。
この問題を考えることは、PTAとは何なのかを考えることでもあります。



現在は、仕組み上、保護者はほぼ全員がPTA会員となっているため、全児童のために活動していることにはあまり違和感がありません。それでも卒業生への記念品などで「非加入の世帯まで配布されるのはおかしい」という声がすでにあるのも事実です。

大前提としてPTAは「藤阪小児童のために奉仕する団体」であり、「会費を払っている自分の子に還元する団体」ではありません。全児童のための活動が求められます。

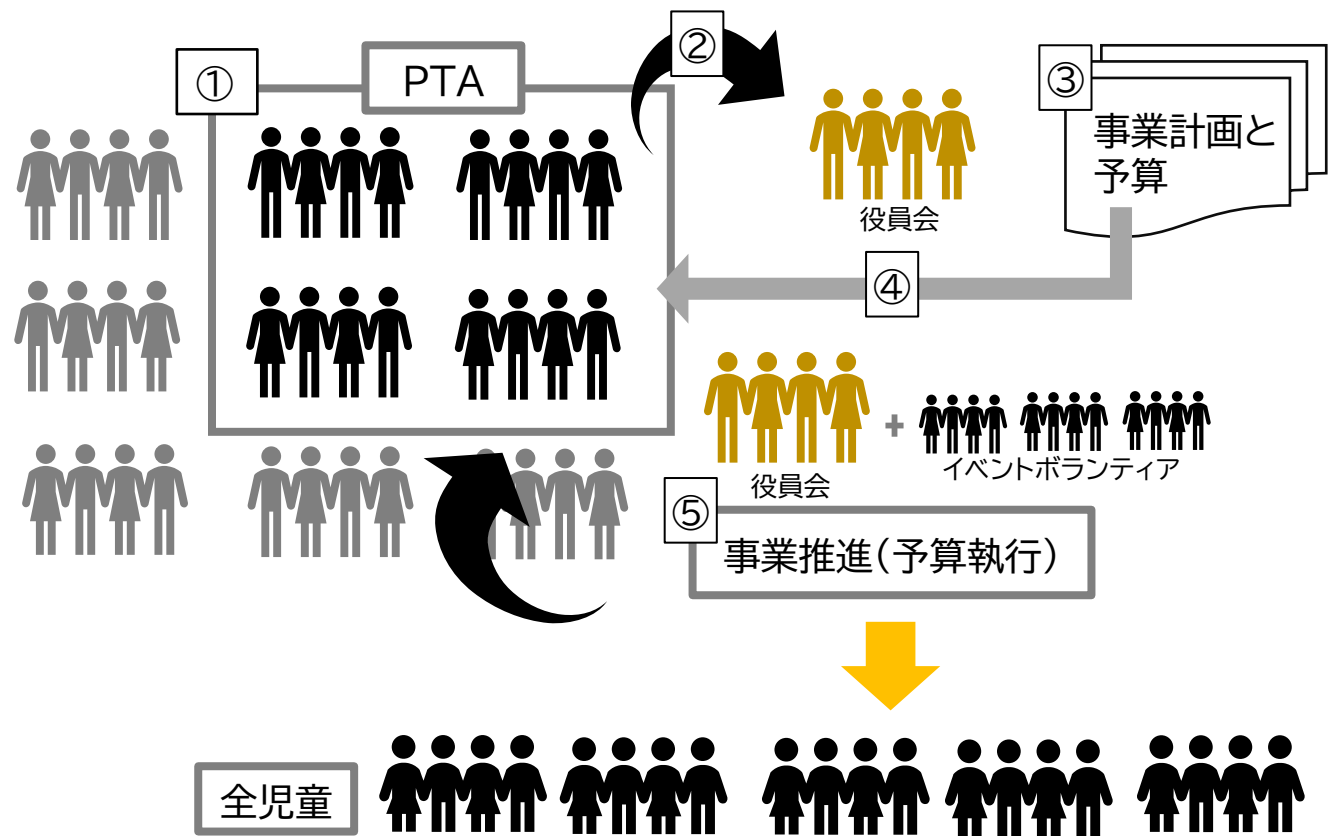


PTAの本質は変えられないため、全児童のための活動は前提となりますが、“会費還元”という感覚を抱きやすい「一人一人への記念品配布」などは、「会費を払っていない家庭の分までなぜ負担を？」という声が大きくなることは間違いありません。そういった活動内容は見直されていくでしょう。

お祭りスタンプカードは
今年が最初で最後？

7. そして、これから

結局、これからどうなるのか。改革の結果の未来像を示しておきます。



①毎年度、全保護者からPTA加入希望を確認する【前年役員会】

②加入者の中から役員の立候補を募る。立候補で足りなければ加入者から追加抽選【前年役員会】

③話し合っ、事業計画と予算を立案【役員会】

④事業計画と予算の承認【総会】

⑤全児童のために事業を行う【役員会】

(毎年度、①に戻り繰り返す)

シン・PTAで
考えられる
事業内容

①子どもたちに必要な備品の購入(寄附)／②ボランティア有志を募った上でのイベント／③通学路安全点検など子どもの安全安心につながるもの など。基本的には役員会で「やるべきこと」かつ「やりたいこと」を話し合っ決めて実行していくことになります！
+実施済みですが「加入手続」「総会」「役員会」「会員周知」をすべてWEBを基本にすることで効率化は可能。

8. さいごに

ここまでお読みいただきありがとうございました。

第1弾、第2弾と2回とったアンケートから、「そもそもPTA存続の必要はない」といった意見もある一方で、「PTAは有意義だと思うが、負担が大きい役員・委員の担い手にはなりたくない」といった人も一定数いることが分かってきました。

「藤小校区まつり」のイメージが大きく、「子どもたちの楽しみとして続けるべき」という声もあれば、「藤小校区まつりをするためだけの団体になっている」「負担が大きすぎる」といった批判もありました。

いろんな意見があつて当然だと思うので、今回の組織見直しの結論として、極論として「解散させる」は選択しませんでした。さらにいうと、「藤小校区まつりはやめる」とか「(逆に)絶対続ける」とか、「今後は積み立ての消化期間として、新たに会費を集めない」とか、何か方向性を決定づける、言い方を変えると「今後を縛る」ようなことはやめておきました。

新たなPTAでは、「子どもたちのためにやってあげたいことを(皆が)やれる範囲で(やりたいように)やる組織」にしたいと思っています。

だから、「〇〇の活動をしなければならない」という規定はできる限りなくします。
会費についても現在の月200円を上限に自由に設定できるようにもする予定です。
(年度予算を立ててみて、会費0円でも運営できるならOKと読み取れる規約にします)

『必要だ』と思う人が参加して、『必要と思われる活動』をしていくというのが一番PTAとして健全だと思うからです。

一人ひとりにとって、PTA会員になることの意義は、「PTA活動に一票を投じることができる」に尽きます。
「PTA活動自体必要ないから関係ない」と考えて非加入を選択するのであればそれも一つだと思いますが、やめてしまうと後続するPTAが暴走(会費を思いもよらぬ形で使うとか)しても関与できません。

また、大前提として、「役員の負担も役員自身で決められる組織」にしていきたいと考えています。
まずは、役員になりたい人がやるのが理想です。次に役員のなり手が足りなくて抽選の結果、役員に“なっちゃった”人でも、「できる範囲でやる、やれる」にしておく必要があると考えています。

引き続き、よりよい組織として動き出せるよう取り組みますので、よろしくお願いします。